

## ピロリ菌と胃がん予防

豊平区福住2条1丁目  
医療法人社団慈昂会 福住内科クリニック  
院長 田中 浩

ピロリ菌は胃に持続感染する細菌で、日本人の感染率は非常に高く、国内に約6000万人

の感染者がいます。ピロリ菌に感染すると必ず慢性胃炎が起これり、この胃炎が消化性潰瘍（かような病気の元凶となります。これはピロリ菌を退治すること（除菌治療）によって予防できるため、2009年1月に「ピロリ菌感染者全員に除菌治療するべき」という指針が日本ヘリコバクター学会から発表されました。大人はいったん除菌に成功すると、再感染する心配はほとんどありません。ただ、膨大な数の感染者がいるため、除菌の保険

適応には種々の制限が設けられています。

大多数の消化性潰瘍の原因はピロリ菌で、除菌することによって潰瘍が治り、再発も抑えられることが知られており、ピロリ菌陽性潰瘍の除菌は2000年から保険適応になっています。しかし潰瘍を発症するのはピロリ菌感染者の3〜4%ほどです。今年6月に、除菌の有効性が高い病気として「特発性血小板減少性紫斑病」などの3疾患が新たに保険適応になりました。ただ、これらは頻度の低い病気です。で、依然としてピロリ菌感染者の90%以上は健康保険適応での除菌ができないのが現状です。

一方、ピロリ菌は胃がん発症の最大原因であることも証明されています。ピロリ菌感染者の0・5%が毎年胃がんを発症、つまり10年間で20人に1人の割合で胃がんを発症しますが、予防的に除菌すれば発症が約3分の1に減少することが分かりました。

以上のことから、すべてのピロリ菌感染者は「胃がん予防目的」で除菌するべきなのです。特に若くて胃炎の進んでいない人ほど、除菌による胃がん予防効果が高いと考えます。しかし健康保険が適応されないのので、自費で行うしか方法がありません。除菌の詳細は、お近くの専門医にご相談ください。